令和２年度　第１回岡崎市生涯学習推進委員会会議録

１　開催及び閉会に関する事項
　令和２年９月 29 日（火）　14 時 00 分～16 時 00 分

２　開催場所
　岡崎市図書館交流プラザ・りぶら　会議室 103

３　出席委員及び欠席委員の氏名
⑴　出席委員（６名）
　益川 浩一　　委員（岐阜大学地域協学センター長教授）
　江良 友子　　委員（愛知学泉短期大学講師）
　山田 美代子　委員（りぶらサポータークラブ副代表）
　葉山 栄子　　委員（岡崎市社会教育委員、名古屋学芸大学参与）
　三矢 勝司　　委員（特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた事業推進マネージャー）
　坂口 啓子　　委員（市民公募委員）

⑵　欠席委員（１名）
　浅岡 悦子　　委員（市民公募委員）

４　説明等のため出席した事務局職員の職氏名
　手嶋俊明（社会文化部長）、松田与一（市民協働推課長）、清水英文（同課副課長）、鈴木智（同課総務企画係長）、野澤成裕（同課活動支援係係長）、内田千尋（主事）、林宏樹（主事）、三宅知子（中央図書館長）、鈴木庸三（同館副館長）、鈴木勝道（同館総務係長）、河合豊（主査）

５　傍聴者等
　０名

６　委員長・副委員長選任
　三矢委員より、益川委員を委員長に、江良委員を副委員長にとの推薦あり
　全員異議なしで、益川委員長、江良副委員長を選任

７　委員長挨拶
（内容省略）

８　議題
⑴　「第３次岡崎市生涯学習推進計画」の策定について【資料１・２】
事務局から資料１（「第３次岡崎市生涯学習推進計画」の策定について）、資料２（第３次岡崎市生涯学習推進計画骨子）について説明

＜以下、各委員の意見等＞
委　員：計画策定において２種類のアンケートがある。市民意識調査は郵送とのことだが、図書館アンケートは同時に郵送で実施するのか。

事務局：市民意識調査の中にも図書館の項目が含まれている。それとは別に、各図書館の窓口及び講座の受講者にアンケートを行う予定である。図書館利用者アンケートは、図書館に関する設問に絞って作っている。

委　員：図書館は別立てにして、図書館についても生涯学習の拠点として位置付けて調査される。

委　員：生涯学習の総合相談窓口とはどんな場所のイメージなのか知りたい。それと、骨子案の課題２にコロナ対応のことが書かれている。自分もコロナ禍において自宅で過ごすときに動画などで学ぶことが多い。大学の講義でも動画で講義を配信することが多く、最近では対面と合わせた形になってきている。動画のようなリソースをいかに活用するか。図書館で調べごとをしようとすると、動画コンテンツのレファレンスがあると便利ではないか。りぶらの計画に関わった経験から、そもそも図書館に調べごとや自学自習のサポート機能があることを一般の人にはあまり知られていない。いかに知ってもらうかが重要と考える。
　もう一つ、地域づくりに携わっている立場から施策４について意見を申し上げたい。住民のニーズや高齢者の暮らし支援などの観点から、りたや地域包括支援センターなどは地域調査を行っている。こうした地域に関する情報やネタを保有している関係機関と、どのように連携していくか。

事務局：学習相談の総合窓口の機能は２つあると考えている。まず、学びたいこと、学ぶ方法を知りたいというニーズにお応えするもの。もう一つは、自分のスキルや経験を活かせないか、つないでもらえないかというもの。

委　員：実際に行っているのか。

事務局：自分が講師となって教える「りぶら講座」があり、そこで実践されている。

委　員：生涯学習にいざなうような情報とともに、その成果を活かす案内やアドバイス情報的な相談支援というイメージかと思う。動画コンテンツの活用と、諸団体との連携について、実態や今後の見通しなどをご説明頂きたい。

事務局：動画コンテンツで学ぶことが一般的になってきている。市が用意するだけでなく、多様な主体による既存のコンテンツを活用させてもらうことも考えていきたい。

事務局：レファレンスの周知に努めているが、あまり一般の方に認知されていない。調べ方など質問したいと思っているかたに、もっと気軽に利用できるようにしたい。仕事にも使ってほしいと考えビジネス支援を進めていきたい。オカビズさんが入っているので、もっと連携を図って情報提供を行っていきたい。まず、今年度はオカビズさんと連携したセミナーを行い、図書館としても情報提供の面でサポートすることを考えている。

委　員：デジタル図書館というキーワードもある。図書館は教育施設として多様な形の教育活動を提供しているということがよくわかる。多様な主体との協働についてはいかがか。

事務局：地域組織として町内会があるので、こうした組織との連携が必要であると思う。

委　員：「いつでもどこでも誰でも」学ぶためのきっかけを作ることが大事だ。言葉１つ取っても少し敷居を下げることで生涯学習というものがわからない市民も多く参加できるようになる。窓口を広くとって、一般市民にもわかりやすい働きかけが大事である。

委　員：大所高所からの議論になりがちだが、一般の方に幅広く行き届くような情報提供が大事であることをご指摘頂いた。そこの原点を認識して進めていきたい。

委　員：第二次計画にはなかった図書館との関係がとりあげられていて嬉しい。単なる趣味や健康づくりだけでなく、学びの楽しさなどを掘り下げて進めてほしい。りぶらだけでなく、各地域で同様の取組ができれば気軽に学ぶことができるようになる。身近なところでそんな活動が展開されているという状況を目指して欲しい。先生と学ぶだけでなく、学んだことを活かすためのアドバイスをしてくれる中間的な機能があると、社会還元につながる。

委　員：りぶらが拠点になるが、各地域に根付いた施設における取組みを進めることで、敷居を下げた身近な生涯学習活動が展開される。そのためのコーディネート機能についてはどう考えるか。

事務局：コーディネートの仕組みづくりを進めることで、地元で活躍できるようになり、大事な施策である。

委　員：主要課題３については、中間支援的な人材を育てていき、連携を深めていくことが課題である。

委　員：問題点に、地域図書館の役割やネットワーク不足とある。地域の図書館こそが地域の人と中央図書館を結びつけるハブの機能になる。地域の図書館は気軽に利用できるので、地域図書館がつなげる役割を果たすことがとても大事になる。

事務局：ご指摘のとおりだ。りぶらは大きな施設であり、さらに額田図書館、南部市民センターは比較的大きな図書室として、いずれも図書館業務を行う専門スタッフを配置して、図書館としての機能をはたしている。各市民センターの地域図書室は、施設が小規模で市民センターの職員が兼務で対応している。機能が十分ではないと認識しており、市民の意見も踏まえて機能の充実を考えていきたい。

委　員：施策２に施設充実と連携強化とある。図書館を含めて、各種施設の連携・ネットワーク化を図ることが重要である。

委　員：ビジネス支援について、今後、オカビズがイオンモールにも展開するという話を聞いている。そこで、オカビズを通じて新しい図書館の利用につなげていけるとよいのではないか。

委　員：公共施設を拠点にしているが、施設にこだわり「待つ姿勢」だけでなく、施設外に出かけていくアウトリーチの発想が大事になってくる。

事務局：市職員が講師になって行う出前講座を、各市民センターなどの身近な場所で取り組んでいる。

委　員：社会教育委員も務めており、地域に密着していないとだめだなと実感している。今回の委員会に先立ってりぶらや講座のことを調べてみると、初めて知ったことが多かった。りぶらまでわざわざ来ることは難しいので、地域の人が行ってみようかなと思ってもらえる身近な取組みを進めないと、活動が深まっていかない。

委　員：敷居を低く、地域の施設を活用して身近に実施する、というのがキーワードのようだ。

　その他、多様な主体との連携、動画コンテンツの活用、情報提供・相談業務の充実、身近な施設を活用した地域密着、施設のネットワーク化などの重要なキーワードをご意見頂いた。

事務局：基本理念については、第２次の考え方を継承するとの説明を行ったが、具体的には今回のご意見も踏まえて見直しを行っていきたい。

委　員：二次の方向性を継承しつつ、新しい視点も勘案しながら文言も含めて昨今の状況に応じた見直しを行うという理解でよいか。

事務局：そのとおりです。

委　員：７次総合計画では、「活躍」というキーワードが出てくる。そこを踏まえて「みんなが活躍できる」という視点を盛り込むことが大事ではないか。

委　員：キャッチフレーズ的にわかりやすい理念をご提示いただきたい。参加・参画というキーワードもあっていいのではないか。啓発という言葉は、上から目線を感じて個人的にはあまり好きではない。

委　員：図書館で調べごとを支援してくれることが知られていない。ウィズコロナ時代も踏まえて、動画などのデジタル技術を上手に活用して知ってもらったらどうか。

委　員：ネットができない高齢者などの巻き込みも大事である。また、経済的な問題からネットの利用が難しいケースもあるので、そこにも対応することが大事ではないか。

委　員：SDGｓの「だれも取り残さない」という視点も踏まえて検討するべきだ。貴重なご意見を多数いただいた。事務局で真摯に受け止めて頂き、検討を行ってほしい。

⑵　市民アンケート（案）について【資料３－１、資料３－２】

事務局から資料３－１（第３期岡崎市市民協働推進計画に関する市民意識調査）、資料３－２（同資料 図書館利用について）について説明

＜以下、各委員の意見等＞

委　員：表紙について。調査の趣旨にあたる２段落目の文章を冒頭に持っていったらどうか。問 13 は「生涯学習活動を行いたい理由について」の誤字があるので修正してほしい。設問以外のご意見もあると思う。意見を聞く機会が少ないので、最後に自由意見記入欄を設けたらどうか。

委　員：資料２に、第２次計画の主な問題点があげられていた。これは、どこから導き出したものか。前回のアンケートから見えてきた成果・課題ではないのか。そうでなければ、むしろその問題に対応した設問になっていることが大事である。

事務局：第２次計画の成果と課題については、検証した結果として見えてきたものである。今回実施するアンケート調査から見えた結果も、しっかり課題に反映したい。

委　員：第２次とは異なる目玉になるような設問も考えていいのではないか。特に、問題点の裏付けや解決の糸口になるような設問があってもいい。

委　員：成果と課題は事務局から導き出したと思うが、さらに今回の調査で明らかになった課題を反映していくとしたら、問題点を踏まえた設問があってもいいのではないかとのこと。ご検討をお願いしたい。

委　員：問２について。80 歳以上という選択肢にしたらどうか。

委　員：他の調査との整合、比較などを踏まえてご検討頂きたい。

委　員：回収率の見込みはどうだろうか。

事務局：前回調査では 27％だった。

委　員：もう少し回収率が高くなるように、リマインドのはがきを送るなど工夫してほしい。

委　員：インターネット時代で、今どきの学生は紙ベースのアンケートは回答しない。

委　員：今後はハイブリッドな調査手法も必要になってくる。

委　員：問 10 の設問に、若い世代の検索のツールとしてインスタも選択肢に入れておいたらどうか。

委　員：ツイッターやユーチューブなどのSNSの個別の名称の取り扱いについてはご確認をお願いしたい。

委　員：問６と問12のギャップがみたい。とくに「やりたい」学習内容だけでなく、「必要がある」学習内容なども把握できると、現状と比較してギャップが見えて、今後の参考になるのではないか。

委　員：アンケート結果は、貴重な市民意見だと思うので、統計的な問題も確認して適切に実施してほしい。

委　員：この調査票に直接記入してもらう形式なのか。集計はどのように行うのか。自由記述があると大変な作業である。

事務局：この用紙に直接回答を記入して頂く。

委　員：次の第２回委員会で計画素案を検討して頂く。タイトなスケジュールかと思うが、本日の委員会のご意見を踏まえて事務局で検討を進めてほしい。

９　連絡事項

次回の委員会は12月頃を予定。日程が決まり次第ご連絡させていただく。

－ 会　議　終　了 －